

木曾谷森林計画区

第三次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成19年 4月 1日
至 平成24年 3月31日

中部森林管理局

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	-----	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量		
(1)	伐採造林計画簿	-----	1
(2)	水源かん養タイプにおける施業群別面積	-----	1
	付表－森林管理署別施業群別面積等		
(3)	水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	-----	3
(4)	生産群別の面積	-----	4
	付表－森林管理署別生産群別の面積等		
(5)	標準伐採量	-----	5
(6)	伐採総量	-----	6
	付表－1 森林管理署別伐採総量(木曽)		
	付表－2 森林管理署別伐採総量(南木曽)		
(7)	更新総量	-----	10
	付表－森林管理署別更新総量		
(8)	保育総量	-----	11
	付表－森林管理署別保育総量		
3	林道の整備に関する事項	-----	12
4	治山に関する事項	-----	15
5	保護林の名称及び区域	-----	18
6	レクリエーションの森の名称及び区域	-----	22
7	その他必要な事項		
(1)	施業指標林・試験地等	-----	33
(2)	フィールドの提供	-----	35

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域
 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添1、国有林野
 施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ご
 との伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添2、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

(単位：面積 ha・伐期齢等 年)

施業群		面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
小面積分散型	ヒノキ小面積分散型	3,239.11	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。伐採方法は皆伐による。	75
長伐期	ヒノキ長伐期	15,900.11	育成単層林施業	主伐は、標準伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において主伐を行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を行い下層植生の発達した森林を成立させる。伐採方法は皆伐による。	200
	カラマツ長伐期	3,401.71			100
複層型	ヒノキ複層型	2,759.48	育成複層林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	200 [75]
漸複層型	木曽五木漸伐複層型	968.95	育成複層林施業	天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	N 200 L 120
	木曽ヒノキ等漸伐複層型	1,296.43			N 250

(単位：面積 ha・伐期齢等 年)

施業群		面積	施業の方法		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
択伐 複層型	人工林 択伐 複層型	1,933.16	育成複層 林施業 及び天然生 林施業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り複数の樹種及び樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	N (35) L (25)
	木曽五木 択伐 複層型	4,358.77			(35)
	木曽ヒノ キ文化財 等択伐 複層型	1,738.40			更正期 <40> (35)
	天然林 択伐 複層型	3,002.09			N (35) L (25)
その他 (三浦実験林)		418.80	育成複層 林施業及 び天然生 林施業	技術開発委員会の計画による。	
合計		39,017.01			

注1：林地以外の土地の面積は含まない。

2：()は回帰年、< >は更正期、[]は複層林の初回伐採の伐期齢である。

3：三浦実験林についてはその他に組み替えた。

4：小面積分散型、長伐期、複層型のうち現在スギ、カラマツとなっている林分については、伐期齢をスギ50年、カラマツ60年とする。

(付表：森林管理署別水源かん養タイプにおける施業群別面積等)

(単位：ha)

施業群		計画区面積	木曽森林管理署	南木曽支署
小面積分散型	ヒノキ小面積分散型	3,239.11	374.92	2,864.19
長伐期	ヒノキ長伐期	15,900.11	14,043.80	1,856.31
	カラマツ長伐期	3,401.71	3,401.71	
複層型	ヒノキ複層型	2,759.48	1,372.26	1,387.22
漸伐複層型	木曽五木漸伐複層型	968.95	968.95	
	木曽ヒノキ等漸伐複層型	1,296.43	1,296.43	
択伐複層型	人工林択伐複層型	1,933.16	1,678.83	254.33
	木曽五木択伐複層型	4,358.77	3,194.40	1,164.37
	木曽ヒノキ文化財等 択伐複層型	1,738.40	1,158.87	579.53
	天然林択伐複層型	3,002.09	3,002.09	
その他(三浦実験林)		418.80	418.80	
合計		39,017.01	30,911.06	8,105.95

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積
小面積分散型施業群	215.94
長伐期施業群	482.55
複層型施業群	137.94
漸伐複層型施業群	45.31
択伐複層型施業群	1,576.06

注：上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積

(4) 生産群別面積等

(単位：ha)

生産群	面積	生産目標等			伐期齢
		樹種	生産目標	期待径級	
ヒノキ中径材	542.74	ヒノキ	芯持ち柱材や一般建築材を主とした生産	28cm	75
ヒノキ無節中径材	1,407.81	ヒノキ	「きそひのき」(人工林ヒノキ)の銘柄化に対応した無節芯持ち柱材や造作材を主とした生産	28cm	75
ヒノキ大径材	359.17	ヒノキ	木曽ヒノキの代替材に向けた生産	40cm	200
ヒノキ大径材複層林	511.35	ヒノキ	公益的機能の維持増進を図りつつ木曽ヒノキの代替材に向けた生産	40cm	200 (75)
針広混交林中大径材	42.68	ヒノキ・カラマツ・モミ・N・L	人工林内に生育している有用天然木及び天然力を十分に活用し、多様な樹種が混交した森林を造成し、将来の需要構造に対応する材の生産	30cm	95
木曽ヒノキ文化財等大径材択伐	27.00	木曽ヒノキ	国指定の文化財等文化的価値の高い建造物への安定的供給に向けた生産	40cm	200
天然林中大径材択伐	70.85	木曽ヒノキ等・N・L	一般建築材や高級家具材等の木工用材の需要に対応する生産	38cm	N200 L120
合計	2,961.60				

注1：林地以外の土地の面積は含まない。

注2：期待径級は、胸高直径である。

注3：()は複層林初回伐採の林齢である。

(付表 : 森林管理署別生産群別面積等)

(面積 : h a)

生産群	計画区面積	木曽森林管理署	南木曽支署
ヒノキ中径材	542.74	399.31	143.43
ヒノキ無節中径材	1,407.81	398.12	1,009.69
ヒノキ大径材	359.17		359.17
ヒノキ大径材複層林	511.35	405.30	106.05
針広混交林中大径材	42.68		42.68
木曽ヒノキ文化財等大径材択伐	27.00	27.00	
天然林中大径材択伐	70.85	17.22	53.63
合計	2,961.60	1,246.95	1,714.65

(5) 標準伐採量

当該計画区の資源の循環利用林の面積は分収造林契約に基づく分収造林及び分収育林契約に基づく分収育林を主とし他は僅少であり標準伐採量は定めない。

(6) 伐採総量

(単位：m3)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
水 土 保 全 林	国 土 保 全 タ イ プ		(881.73) 85,669	85,669				
	水 源 か ん 養 タ イ プ	ヒノキ小面積分散型	19,263	35,849	55,112			
		ヒノキ長伐期	34,574	115,803	150,319			
		カラマツ長伐期		45,552	45,552			
		ヒノキ複層型	2,175	40,073	42,248			
		木曽五木漸伐複層型	3,003		3,003			
		人工林択伐複層型		9,849	9,849			
		木曽五木択伐複層型	8,951	186	9,137			
		木曽ヒノキ等文化財 択伐複層型	24,389		24,389			
		天然林択伐複層型						
		小 計	92,355	(2,413.69) 247,312	339,667			
計	92,355	(3,294.42) 332,981	425,336					
森 林 と 人 と の 共 生 林	森林空間利用タイプ		17,236	17,236				
	計		(173.41) 17,236	17,236				

(単位：m3)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
資源の 循 環 利用林	ヒノキ中径材	1,997	782	2,779				
	ヒノキ無節中径材	7,415	17,258	24,673				
	ヒノキ大径材	2,058	371	2,429				
	ヒノキ大径材複層林	11,273	2,270	13,543				
	計	22,743	(268.12) 17,236	43,424				
合 計		115,098	(3,736.95) 370,898	485,996	24,004	510,000		510,000
年 平 均		23,019	74,180	97,199	4,801	102,000		102,000

注：() 書は間伐面積：h aである。

(付表1：森林管理署別伐採総量(木曽森林管理署))

(単位：m3)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
水土 保全 林	国 土 保 全 タ イ プ		(129.22) 12,865	12,865				
	ヒノキ小面積分散型		4,703	4,703				
	ヒノキ長伐期	34,574	92,018	126,592				
	カラマツ長伐期		45,552	45,552				
	ヒノキ複層型	2,175	22,741	24,916				
	木曽五木漸伐複層型	3,003		3,003				
	人工林択伐複層型		6,150	6,150				
	木曽五木択伐複層型	7,117	186	7,303				

区 分			林 地				林地 以外	合 計
			主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量		
水 土 保 全 林 イ ブ	水 か ん タ イ プ	天然林択伐複層型						
		木曾ヒノキ等文化財 択伐複層型	11,548		11,548			
		小 計	58,417	(1,630.75) 171,350	229,767			
	計	58,417	(1,759.97) 184,215	242,632				
森 林 と 人 と の 共 生 林	森林空間利用タイプ			17,144	17,144			
	計			(172.24) 17,144	17,144			
資 源 の 循 環 利 用 林	ヒノキ中径材		1,997		1,997			
	ヒノキ無節中径材		6,069	738	6,807			
	ヒノキ大径材							
	ヒノキ大径材複層林		4,989		4,989			
	計		13,098	(12.69) 738	13,793			
合 計			71,472	(1,939.30) 202,097	273,569	13,011	286,580	286,580
年 平 均			14,295	40,419	54,714	2,602	57,316	57,316

注：() 書は間伐面積：h aである。

(付表2：森林管理署別伐採総量(南木曾支署))

(単位：m3)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
水土 保全 林	国 土 保 全 タ イ プ			(752.51) 72,804	72,804			
	水 源 か ん 養 タ イ プ	ヒノキ小面積分散型	19,263	31,146	50,409			
		ヒノキ長伐期		23,785	23,785			
		カラマツ長伐期						
		ヒノキ複層型		17,332	17,332			
		人工林択伐複層型		3,699	3,699			
		木曾五木択伐複層型	1,834		1,834			
		木曾ヒノキ等文化財 択伐複層型	12,841		12,841			
		小 計	33,938	(782.94) 75,962	109,900			
計	33,938	(1,535.15) 148,766	182,704					
森林と人 と の 共 生 林	森林空間利用タイプ			92	92			
	計			(1.17) 92	92			
資源の循 環利用林	ヒノキ中径材			782	782			
	ヒノキ無節中径材		1,346	16,520	17,866			
	ヒノキ大径材		2,058	371	2,429			
	ヒノキ大径材複層林		6,284	2,270	8,554			
	計		9,688	(261.03) 19,943	29,631			
合 計		43,626	(1,797.65) 168,801	212,427	10,993	223,420	223,420	
年 平 均		8,725	33,760	42,485	2,199	44,684	44,684	

注：() 書は間伐面積：haである。

(7)更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 土 全 保 全 土 全 保 全 タイプ	水 源 かん 養 水 源 かん 養 タイプ	計	自 然 維 持 自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	8.71	207.93	216.64				34.40	251.04
	複 層 林 造 成	13.49	86.86	100.35				85.70	186.05
	計	22.20	294.79	316.99				120.10	437.09
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類	17.04	958.06	975.10					975.10
	天 然 下 種 第 2 類								
	計	17.04	958.06	975.10					975.10
合 計		39.24	1,252.85	1,292.09				120.10	1,412.19

(付表：森林管理署別更新総量)

(単位：ha)

区 分			水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計	
			国 土 保 全 土 全 保 全 土 全 保 全 タイプ	水 源 かん 養 水 源 かん 養 タイプ	計	自 然 維 持 自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 森 林 空 間 利 用 タイプ	計			
木 曾	人 工 造 林	単 層 林 造 成		157.05	157.05				16.84	173.89	
		複 層 林 造 成		38.26	38.26				66.22	104.48	
		計		195.31	195.31				83.06	278.37	
	天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類	10.57	850.19	860.76					860.76	
		天 然 下 種 第 2 類									
		計	10.57	850.19	860.76					860.76	
	合 計		10.57	1,045.50	1,056.07				81.46	1,139.13	
	南 木 曾	人 工 造 林	単 層 林 造 成	8.71	50.88	59.59				17.56	77.15
			複 層 林 造 成	13.49	48.60	62.09				19.48	81.57
計			22.20	99.48	121.68				37.04	158.72	
天 然 更 新		天 然 下 種 第 1 類	6.47	107.87	114.34					114.34	
		天 然 下 種 第 2 類									
		計	6.47	107.87	114.34					114.34	
合 計		28.67	207.35	236.02				37.04	273.06		

(8) 保育総量

(単位 : h a)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
保 育	下 刈	363.26	3,305.07	3,668.33		74.50	74.50	559.27	4,302.10
	つる切	212.15	2,000.75	2,212.90		6.09	6.09	159.41	2,378.40
	除 伐	252.92	2,472.58	2,725.50		5.01	5.01	278.49	3,009.00

(付表 : 森林管理署別保育総量)

(単位 : h a)

区 分			水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
			国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
保 育	木 曾	下 刈	269.90	2,485.44	2,755.34		74.50	74.50	441.71	3,271.55
		つる切	88.03	1,499.99	1,588.02		6.09	6.09	123.69	1,717.80
		除 伐	71.71	1,850.26	1,921.97		4.27	4.27	199.83	2,126.07
	南 木 曾	下 刈	93.36	819.63	912.99				117.56	1,030.55
		つる切	124.12	500.76	624.88				35.72	660.60
		除 伐	181.21	622.32	803.53		0.74	0.74	78.66	882.93

3 林道の整備に関する事項

基幹・その他別		路線名	箇所(林班名)	延長(m)	備考
基幹	開設	尾頭沢池の沢連絡	木曽 1167 1箇所	480	
		瀬戸川・高樽	木曽 2144～2167 1箇所	3,000	
		小川殿	南木曽1114外 1箇所	2,000	
	計		3箇所	5,480	
	改良	畑福皆沢	木曽 556外 3箇所	200	
		西野川千本松	825外 4箇所	300	
		分度沢白川	200外 3箇所	200	
		灰沢下柿沢	130外 3箇所	200	
		塩沢藪原	1212外 3箇所	100	
		藪原	1142外 3箇所	100	
		味噌川枯尾	1124外 2箇所	50	
		笹川	1023外 4箇所	200	
		瀬戸川高樽	2045外 4箇所	300	
		氷ヶ瀬小俣	2248外 4箇所	300	
		御岳御厩野	2450外 3箇所	200	
		柿其樽ヶ沢	南木曽 74外 3箇所	50	
		浦川上山	1312外 3箇所	60	
		南木曽	352外 3箇所	50	
		南蘭	630外 2箇所	35	
		夕森田立	2135外 2箇所	20	
殿灰沢		1023外 2箇所	20		
阿寺タツガヒゲ	1223外 3箇所	30			
浦川上山	1223外 1箇所	50			
計		55箇所	2,465		
その他	開設	白川支線	木曽 187外 1箇所	270	
		助六	2191外 1箇所	2,300	
		大水無	2642外 1箇所	500	
		ムクリ沢	南木曽536外 1箇所	515	
		中ノ沢	607外 1箇所	2,000	
		クラシシ	1120外 1箇所	1,000	
		鍋割沢	616外 1箇所	1,000	
	計		7箇所	7,585	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路 線 名	箇 所 (林班名)	延 長 (m)	備 考
	改良	西野中腹	木曾 505外 2 箇所	100	
		高坪	506外 2 箇所	50	
		栃洞	549外 2 箇所	50	
		小梨ヶ洞	519外 2 箇所	50	
		川戸沢	531外 2 箇所	50	
		末川支線	534外 2 箇所	50	
		大柳	554外 2 箇所	50	
		新高	811外 2 箇所	50	
		西野川	814外 2 箇所	50	
		唐沢	830外 2 箇所	50	
		道官	738外 2 箇所	50	
		カベ沢	760外 2 箇所	50	
		小樽	751外 2 箇所	50	
		小樽支線	752外 2 箇所	50	
		中沢	707外 2 箇所	50	
		黒石	670外 2 箇所	50	
		下柿沢支線	149外 3 箇所	100	
		赤沢中腹	134外 2 箇所	50	
		ベ口沢	179外 3 箇所	100	
		肥沢	12外 3 箇所	150	
		台ヶ峰	270外 2 箇所	50	
		下柿沢中腹	155外 2 箇所	50	
		笹尾沢	1093外 3 箇所	150	
		笹尾沢支線	1083外 2 箇所	50	
		奈良の平	1022外 2 箇所	50	
		下押出沢	1042外 2 箇所	50	
		鍼川支線	2222外 3 箇所	100	
		下黒沢	2337外 2 箇所	50	
		赤棚	2304外 3 箇所	100	
		赤棚支線	2313外 3 箇所	100	
		水無	2594外 3 箇所	100	
		鈴ヶ沢	2409外 3 箇所	100	
		大助谷	2200外 2 箇所	50	
		崩沢	2100外 2 箇所	50	
		唐谷	2723外 2 箇所	50	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路 線 名	箇 所 (林班名)	延 長 (m)	備 考	
		額付	南木曾525外	2 箇所	15	
		南沢	399外	1 箇所	10	
		ムクリ沢	535外	3 箇所	30	
		忠兵衛沢	18外	1 箇所	15	
		ナメリ沢	50外	2 箇所	20	
		ワラビ沢	86外	1 箇所	15	
		長者畑 (床浪)	559外	2 箇所	30	
		長谷川	2140外	1 箇所	20	
		薬師	1003外	2 箇所	20	
		福べ沢	1312外	1 箇所	40	
		樽ヶ沢付知又	1209外	2 箇所	40	
	計			97 箇所	2,605	
合 計	開 設			10 箇所	13,065	(木曾) 5箇所 6,550m (南木曾) 5箇所 6,515m
	改 良			152 箇所	5,070	(木曾) 115 箇所 4,500m (南木曾) 37 箇所 570m

4 治山に関する事項

(単位：保全施設・箇所：保安林の整備・ha)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
木曾 345・346、1038・1041、1043、1054・1061、 1124・1125、1128、1195・1196、1197・1198、1201、 1204・1205、1207・1208、1211、2113・2115、 2234・2237、2239、2245・2246、2256、2358、2365、 2366、 南木曾 45・47、47・53・54、54・55、14・16、58・61、312、325・ 330、322・330、330・339、333・334、334、332・333、 333、333・334、382・373、385・387、401、363・ 358、403・418、513、520・522、523・524、535・538、 546、555、564・566、572・590、572・587、609・612、 612・620、612・622、616、616・617、616・619、 662・665、663・665、703・704、705・706、705、 2113・2114、2108、2119・2122、2123・2124、 2137・2138、2140・2142、1117・1123、1127・1129、 1127・1129、1158、1176、1160・1161、1165、 1170・1171、1190・1192、1168・1169、1217、 1217・1220、1213・1224、1342、1388・1340、 1313・1314、1319・1342、1338・1341、1341・1342、 1349・1381、1350・1353、1394・1403、 1406・1407・1423、1419・1414・1415、	保 全 施 設	溪 間 工	3 5 (木 曾) 9 (南木曾) 2 6
木曾 12・13、1038～1041、1054・1061、1124、1125、 1195、1196、1198、1208、2113、2248、2249、2234～ 2237、2239、2256、2290、2556、2425 南木曾 459、36・37、44、49、55、62、63、304、307、332、325、 345、384、385、386、387、388、351、397、527、543、 544、546、547、569、570、571、572、573、586、591、 613、614、615、630、637、661、668、672、675、 676、703、704、2104、2127、2128、2136、2137、 2139、1127・1128、1133、1158、1159、1160、1161、 1165、1168、1170、1171、1171・1172、1189、1191、 1212、1223、1228		山 腹 工	3 5 (木 曾) 9 (南木曾) 2 6

(単位 : 保全施設・箇所 : 保安林の整備・h a)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
1306、1307、1311、1312、1313、1314、1340、1317、 1341、1347、1346、1383、1391、1394、1398、1406、 1409、1408、	保 全 施 設	山 腹 工	
木 曾	保 安 林 の 整 備		4,618.50
12、29 ~ 31、33、34、40、42、43、52、56、155 ~ 161、 164 ~ 169、184、188、196、239、245、258、261 ~ 263、268、272、301 ~ 303、506、511、513、514、517、 518、520、521、523 ~ 529、557 ~ 559、565、570、 572、602 ~ 605、608、609、635、664 ~ 667、729 ~ 732、738 ~ 741、750 ~ 753、758 ~ 760、808、810、 814、829、830、835、844、847、848、850、851、854、 874、1005、1011、1014 ~ 1 016、1019、1023、1045、 1047、1051 ~ 1055、1058 ~ 1063、1065、1077 ~ 1079、1081 ~ 1084、1092、1093、1104、1106 ~ 1111、1115 ~ 1117、1122、1123、1129、 1134 ~ 1142、1168、1174 ~ 1180、1182、 1184 ~ 1187、1191 ~ 1 198、1218、1219、2092、 2096 ~ 2098、2121 ~ 2124、2127 ~ 2131、2136、 2138、2139、2142、2143、2149、2150、2153、2155、 2203、2204、2209、2251 ~ 2253、2255 ~ 2257、2259 ~ 2264、2266、2267、2269、2270、2274 ~ 2276、 2278 ~ 2281、2323、2346、2347、2369、2370、2373、 2374、2377、2378、2381 ~ 2385、2387、2389、2390、 2393、2396、2397、2404、2406、2409、2412、2415 ~ 2417、2421、2422、2424、2432、2433、2514、 2524、2526、2529 ~ 2531、2544、2549、2553、2554、 2556 ~ 2558、2560、2563、2575、2594、 2595 ~ 2597、2601、2602、2604、2657、2758 ~ 2660、2663、2668 ~ 2770、2779、2780、2783、2785、 2786、2791 ~ 2802、2814 ~ 2816			(木 曾) 3,046.01
南木曾 8 ~ 12、28、45 ~ 49、51、53 ~ 58、60、63、65、66、69、 73、81、84、85、89、90、93、97、99、100、103 ~ 106、 107、301 ~ 306、311、312、314、319、345、346、351、 353、354、357、359、364、381、383、385、387、389、			(南木曾) 1,572.49

(単位 : 保全施設・箇所 : 保安林の整備・h a)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
391、393、394、397、404、406、413、524、526、527、 528、539、541、542、 545、551 ~ 553、555、 557 ~ 560、563、568、570、589、590、593 ~ 595、 602、605、606、612、619、622、626、627、629、630、 631、633 ~ 638、642、645、647 ~ 649、652 ~ 654、 656、657、663、687、704 ~ 706、1006、1086、1090、 1091、1095、1096、1098、1099、1101 ~ 1108、1124 ~ 1128、1130、1160 ~ 1162、1165、1167 ~ 1171、 1180、1199 ~ 1207、1210 ~ 1214、1229 ~ 1233、 1235、1236、1255、1256、1309、1311、1318、1319、 1337、1338、1393 ~ 1406、2101、2125、2135、2140、 2143			
再掲	保 全 施 設	溪 間 工	35
		山 腹 工	35
	保 安 林 の 整 備	保 育 外	4,618.50

注 : 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。

5 保護林の名称及び区域

当計画区は貴重な自然環境としての天然林等が多数存在するため、国有林野事業の管理経営との調整を図りつつ適切に保護・保存を図って行くこととする。

種 別		森 林 生 態 系 保 護 地 域			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
中央アル プス木曾 駒ヶ岳	既設	4,140.20 保存地区 1,812.61 保全利用地 区 2,327.59	木曾 (729.36) 358- に・ほ・八、359- ろ・は・イ・四、359- ろ・イ 南木曾 (1,083.25) 1412は・に・四、1418ろ・ に・四・八 木曾 (874.87) 358- い・ろ・は・四 359- い、359- い 南木曾 (1,452.72) 1411ろ・に、1412い・ろ・ イ、1418い・は・ハ・イ	日本海型から太平洋型 気候の推移帯に位置し、 また、標高が1,200m～ 1,900mの範囲にあるこ とから低山帯から高山帯 にある原生的で多様な森 林構造を有している。 このため 自然環境の 維持、動植物の保護、森 林に関する技術の発展、 学術研究に資するため森 林の生態系を保護する。	保存地区の森林 は、原則として人 手を加えず自然の 推移に委ねる。 保全利用地区の 森林は、木材生産 を目的とする森林 施業は行わない。 細部については 「中央アルプス木 曾駒ヶ岳森林生態 系保護地域計画」 及び、ライチョウ の保護管理につい ては「ライチョウ 希少野生動植物種 保護管理事業実施 方針書」により実 施を する。
面積計		4,140.20			

種 別		林 木 遺 伝 資 源 保 存 林			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
鉢盛山 コメツガ 等	既設	75.07	木曾 1133㉔、1136㉔	コメツガ・トウヒ・シ ラベ・カンバ等の遺伝資 源を保存する。	原則として伐採 は行わない。 ただし、保存対 象樹種の安定的か つ恒久的な存続を 図るために必要な 場合は、枯損木及 び、被害木の除去 を中心とした弱度 の択伐を行う。
寝覚の床 サワラ	既設	57.25	木曾 21㉔・3、22㉔・3	サワラ天然林を遺伝資 源として保存する。	
赤 沢 ヒノキ等	既設	81.10	木曾 83㉔、84㉔、86㉔、87㉔、 89㉔	木曾ヒノキ・ヒバの天 然林を遺伝資源として保 存する。	
皆 沢 アカマツ 等	既設	9.62	木曾 585㉔・3・に・ほ・へ	形質の良いアカマツ・ サワラ・ウラジロモミ等 からなる林分であり、こ れらの遺伝資源を保存す る。	
新 高 コメツガ 等	既設	51.13	木曾 818㉔	コメツガ・シラベ・ア オモリトドマツの天然林 であり、これらの遺伝資 源を保存する。	
面積計		274.17			

種 別		植 物 群 落 保 護 林			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
瀬戸川 ヒノキ等	既設	2.24	木曾 2025㉔	阿寺山系の木曾ヒノキ を主とする林分で学術的 価値が高い森林を保護す る。	原則として、人手 を加えず自然の推 移に委ねた保護管 理を行う。
助 六 ヒノキ等	既設	29.36	木曾 2201㉔、2202㉔・3、 2221㉔	木曾ヒノキ、サワラを 主とする森林である。 当該区域は濃飛流紋岩と 玄武岩地区に別れてお り、地質界を境として天 然林の樹種構成が異なる ばかりか、土壌の形質や 性質にも大きな違いがあ り地質や土壌の違いに基 づく植生の違いを良く示 す森林として保護する。	なお赤沢ヒノキ 等保護林の100 は1・は2・は3 の試験地について は試験目的に沿っ た施業を行う。

種 別		植 物 群 落 保 護 林			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
赤 沢 ヒノキ等	既設	332.83	木曾 80い、81い・ろ、82い、 90い、91い、92い・は、 97い～に、98い～は、 99い、100い～は3、 111い、112い、119い、 120い・ろ、121い	人為が加わって成林した典型的な木曾ヒノキの森林生態系を保護する。	原則として、人手を加えず自然の推移に委ねた保護管理を行う。
台ヶ峰 サワラ	既設	3.81	木曾 2615	木曾谷で最も優れた典型的なサワラ林を形成している天然林を保護する。	
カラ沢 ヒノキ	既設	3.07	木曾 683	御料林時代の明治後期以降木曾ヒノキ天然林の伐採、人工造林が進められる中で、天然林の原形状態が良く保存されている森林生態系を保護する。	
油木沢 ヒノキ	既設	48.80	木曾 866い、867い、872い、 873い	人為が加わって成林した典型的な木曾ヒノキの森林生態系を保護する。	
賤母 ヒノキ等	既設	30.29 (50.97)	南木曾 702い、7073	長野県の南端に位置し、温暖帯の森林植生の接点に当たる箇所であり、急峻な斜面に500種以上の植物が生育し、木曾谷の一般的な森林と異なる特異な植生を形成している貴重な森林を保護する。注：()は保護林全域の面積である。	
面積計		450.40			

種 別		植 物 群 落 保 護 林			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
南木曾岳	新設	672.89	南木曾 424全～435全、5133、 514い・は、515全、516い・ ろ・へ、517い・は・ほ、 518全、519い、520い、 521全、522い・は、523全、 524い	南木曾岳山頂部周辺は 木曾ヒノキ、コウヤマ キ、ネズコ等木曾五木が 生育し、林床にはキョウ マルシャクナゲ等が生育 するなど深層風化花崗岩 からなる急峻な山岳地形 と相まって木曾谷南部の 典型的な森林生態系であ る森林系を保護する。	原則として、人 手を加えず自然の 推移に委ねた保護 管理を行う。
面積計		1,123.29			

種 別		特 定 地 理 等 保 護 林			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
木曾御岳	既設	1,159.29	木曾 832い・ロ、863い・ヤ、 2330い、2452い・ロ、 2453い・チ、2668い、 2697い、2760い	御嶽山の山頂に近い火 口のカルデラ、噴気口な ど数多くの特徴を持った 地形・地質等の植生を含 めて保護し併せて学術研 究等に資する。	地形・地質等の 特性を踏まえ原則 として森林施業は 行わない。 なお、保安施設 事業の実施に当た っては、自然景観 に配慮した工種・ 工法を採用し適切 に行う。
面積計		1,159.29			

種 別		郷 土 の 森			
名 称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	特 徴 等	施 業 等
水木沢	既 設	81.52	木曾 1030い・ろ、1031い	木曾ヒノキ、サワラ、 ネズコ、ブナ等の多種・ 多様な林相を呈する天然 林で、木祖村において象 徴となる森林を郷土の森 として保護する。	「水木沢郷土の 森保護・管理・利 用計画書」に基づ き適切に行う。
面積計		81.52			

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種 類		自 然 休 養 林			
名称	新改 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	選 定 理 由	施 業 等
木曾 御岳	既設	831.92	付表1のとおり	御嶽山の南斜面の中腹部にあり、春秋の自然探勝、夏の登山、冬のスキーと四季をとおして保健休養資源に恵まれ、利用者が多く保健休養の場として適した地域である。 * 売り払いにより0.03ha減となった。	付表1のとおり
赤沢	既設	728.48	付表2のとおり	日本三大美林の一つ、木曾ヒノキの森林を広く一般にも公開し、森林の持つ美しさを観賞してもらおうとするものである。準平原の緩やかな起伏の台地にそそり立つ木曾ヒノキとその裾をまつわる清流、澄んだ空気、林業関係の展示などの施設とともに野外レクリエーションの場として適している。	付表2のとおり
面積計		1,560.40			

種 別		森 林 ス ポ ー ツ 林				
名称	新改 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	選 定 理 由	施 業 等	
滝越	既設	69.65	木曾 25013・に、2552い・る、 25553 ----- 2501い・は・ほ、2552は、 2555い・は ----- 2552い、2555い・ロ	滝越地区の森林と溪流 のおりなす優美な自然景 観を生かしながら、野外 スポーツに供する適地で ある。	木曾ヒノキ、サワラ 等を主とする天然林に ついては混入している 広葉樹の保残等を図 り、利用に当たって快 適な森林に誘導する。 ヒノキ、カラマツ 等の人工林については 広葉樹の導入を図るな ど、多様な樹種からな る明るい森林に誘導す る。	育成複 層林施 業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以 外
開田	既設	128.72	木曾 801い・へ、802い～は、 803い・は・に、807わ～ そ・な・ら・や、808い～ほ と～か・た・つ～な、 809い～と、8103・へ 8013、8033、808へ よ・れ・そ、8105・り ----- 803い、807い、808い、 809い、810こ	御嶽山の山腹の自然景 観に恵まれたなだらかな 地形を有し、森林の中 での快適なスポーツ活動 に適した地域である。	ヒノキ、カラマツの 人工林については、混 入している広葉樹を保 残し、針広混交林に 誘導し大樹の森とす る。 木曾ヒノキ等の天然 林は自然の推移に委ね 現状林分の維持に努め る。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 施業林地 以外
面積計		198.37				

種 類		野 外 ス ポ ー ツ 地 域				
名称	新設 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	選 定 理 由	施 業 等	
藪原	既設	83.90	木曾 1217い～と、1218い～ に・ちる ----- 1217い、1218い・ロ	昭和48年設定された スキー場である。民有林 のスキー場と一体となっ ており、雪質がよく変化 に富んだ地形のスキー場 で初心者から上級者まで 楽しめることから野外ス ポーツの場として適して いる。	カラマツ人工林につ いては混入している広 葉樹等の保残を図り、 針広混交林に誘導し大 樹の森とする。	育成複層 林施業 ----- 林地以外

種 類		野 外 ス ポ ー ツ 地 域			
名称	新設 既設	面積 (ha)	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等
奈川	既設	14.77	木曾 1056は、1118は、 1119は ----- 1056イ	木曾路原高原休養開発計画の一環として整備されたスキー場で、緩急に富んだ地形や良好な雪質から初心者から上級者まで利用でき野外スポーツの場として適している。	天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ----- 林地以外
三岳	既設	282.12	木曾 849い、850ぬ、854ろ・に ～と・か、857ろ～ほ・ち、 858ろ・は・ほ～と ----- 843ほ、850ろ、853り、 854い・は・ぬ～わ・よ、 856い～ち、857い・へ・ と・り～よ、858い・に・ち・ り、8633 ----- 843イ・ロ、849イ～ニ、 850イ、853ニ、854イ ～ニ、856イ～ホ、 857イ～ル	昭和57年設定されたスキー場である。御嶽山中腹に壮大なゲレンデを持つスキー場でコースの頂上付近からは御嶽山、乗鞍岳及び北アルプスが眺望される。施設の整備、充実により更に活用される地域である。	カラマツ等の人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導し大樹の森とする。 天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ----- 林地以外
開田	既設	307.67	木曾 810は～ほ・と・ぬ、 811い～る、814ろ～ほ、 と～わ ----- 806い、810い・る、812 い～は、813い～に、 810イ～ル、811イ～ ホ、812イ、813イ、 814イ～ホ	昭和62年設定されたスキー場である。御嶽山の東斜面に位置し、自然景観及び周辺のレクリエーション施設と一体となり今後更に活用される地域である。	カラマツ等の人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導し大樹の森とする。 天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ----- 林地以外
奥三界	既設	42.98	南木曾 413～に、423・は ----- 41イ、42イ、45イ	阿寺山地南端の奥三界岳のなだらかな山頂部に広がる高層湿原を中心とした区域でハイキング、登山等野外スポーツの場として適している。	木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 ----- 林地以外
面積計		731.44			

種類		風景林			
名称	新改 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等
鷹回り	既設	40.02	木曾 1095は、1096い、1187 い・ろ・は・と	木曾川の支流である味噌川の上流に位置し木曾ヒノキ、サワラを主体とした天然林で構成され、味噌川ダム(奥木曾湖)と一体となった優れた景観を呈している。	木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 天然生林 施業
白草山	既設	47.36	木曾 2610イ、2611イ	岐阜県と長野県の県境でなだらかに横たわる白草山は、風衝のため矮性化した広葉樹と密生する笹がおりなす特異な景観を呈している。	笹生地については、原則として現状景観の維持に努める。 林地以外
助六	既設	98.92	木曾 2137い、2138ろ、 2139ろ、2140は、 2209へ、2210ろ、 2212ろ、2213ろ、 2214ろ ----- 2214イ・ロ	鹹川上流の断崖状の岩により構成された渓谷一帯である。豊かな清流、水触によるホール、坊主岩、仏岩などが周辺の木曾ヒノキ、サワラを主とした天然林と一体となって優れた景観美を呈している。	木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 林地以外
三浦ダム	既設	139.11	木曾 2587ろ、2656ろ、2727 は・り、2788ろ・は・ほ・と・ り・ぬ、2790い・ろ・へ ----- 2574ろ～に、2587い・ は、2588い、2656い、 2721ろ、2722へ、2725 い、2726い、2727い・ろ、 2729い、2780は、2788 い・に・へ・ち、2790は、 2791い ----- 2574ロ、2725イ、 2726イ、2727イ・ロ、 2729イ、2788イ～ ハ、2790イ	三浦ダム湖の周囲に位置する森林で木曾ヒノキ、サワラ等の天然林が大部分を占め湖面・岬・入江が森林と一体となった優れた景観を呈している。 * なお、本計画では区域の見直しを行い1118.99ha減となった。	ヒノキ、カラマツの人工林については、混入している広葉樹を保全し、針広混交林に誘導する。 木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。 育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外

種 類		風 景 林				
名称	新改 既設	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
王滝川	既設	436.69	木曾 23013、2310は、2319 は、23203、2388に・ほ 2791と～か、27923・ に・と、2793に・ハ・よ、 27943～に・ハ・と、 27953、2796は、 2798は、27993 ----- 2301い・ろ、2303い～ は、2309い、2310い・ろ、 2311い、2316い、2317 い、23193、2320は、 2343い、23873・に、 23883・は、2791に～ ハ、2792ほ・り、2793は・ ほ・る、2794い・ほ、 2795に、2796に、2797 ろ、2798ち、2799は ----- 2303ロ、2316イ、2317 イ、2320ロ、2342二、 2343イ、2388ロ・ホ・ハ、 2791イ、2792イ・ロ、 2793イ・ロ・ハ、2795イ	氷ヶ瀬から三浦ダムに 至る王滝川沿いの道路沿 線に広がる森林で木曾ヒ ノキ・サワラを主とする 天然林が王滝川と一体と なって優れた景観美を呈 している。	ヒノキ、カラマツの 人工林については、混 入している広葉樹を保 残し針広混交林に誘導 する。 木曾ヒノキ等の天然 林は自然の推移に委ね 現状林分の維持に努め る。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外
寝覚 の床	既設	21.55	木曾 26は ----- 26い・ろ・に・ほ	史跡名勝天然記念物に 指定されている「寝覚の 床」と一体となって特色 のある優れた自然景観を 構成している。	ヒノキ人工林につい ては混入している広葉 樹等の保残を図り、針 広混交林に誘導する。 サワラ等天然林は自 然の推移に委ね現状林 分の維持に努める。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業
面 積 計		783.65				

種 別		風 致 探 勝 林				
名称	新改 既設	面 積 (h a)	位 置 (林 小 班)	選 定 理 由	施 業 等	
城山	既設	77.90	木曾 7243、7253・ほ、726 い・に～り ----- 722い、723い、724い、 725い・に・ほ、7263・ほ ----- 722い、724い、725い	木曾町福島市街地の背景林となっており、木曾ヒノキ、サワラを主とする天然林で民有地と国有地を結ぶ遊歩道が設置され地域住民の憩いの場として活用されている。 平成16年度には「城山史跡の森」として協定を締結しNPOやボランティア団体の活動の拠点として利用されている。	スギ・ヒノキ・アカマツ・カラマツ等の人工林は混入している広葉樹等の保残を図り針広混交林に誘導する。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外
開田	既設	103.86	木曾 814へ・か・よ、815い～ に、816い・ろ、826い～ は、827い・は、 ----- 8273・に・ほ ----- 815い	御嶽山の山腹に位置し自然景観に恵まれた地域でスキー場及び民有地の宿泊施設の背景林で、森林内での自然探勝に適している。	人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導する。 天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外
阿寺	既設	239.59	南木曾 10693・ほ、1071ほ、 1073と～り、1083へち・ か～れ、1084ろ、1085 ち・ぬ、1086ほ、1090と、 1091い、1092に・ほ、 1093と、1096い、1097 ろ、1101は、1102ほ・ち、 1204は、1205ほ、1206 ほ、1207と、1208ほ、 1232は、1233い・ろ、 1234ろ、1235ほ ----- 1069い、1070い、1071 ろ、1085り、1205へ、 1206へ、1208に、1238 へ、1239ろ、1240へ・ と、1242い、1243い・ろ、 1244い、1245い ----- 1073い、1102い、 1204い、ハ	飯盛山と阿寺溪谷入口付近は木曾ヒノキ・サワラ・コウヤマキ・ヒメコマツ・コメツガ等の天然林であり、阿寺川沿いの道路沿線は高齢級のヒノキ人工林で溪流と一体となった景観美をなしており、自然探勝、憩いの場として保健休養の場に適している。	ヒノキ人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導する。 木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外

種類		風 致 探 勝 林				
名称	新改 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
大平 峠	既設	60.48	南木曾 5953・に・ほ ----- 594は、595い・は・へ、 596い ----- 5951～2	木曾谷と伊那谷を結ぶ大平峠付近の民有林には「県民の森」が設定されており、国有林はその背景林として林内散策の場として利用されている。	人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導する。 サワラ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外
馬籠 峠	既設	74.33	南木曾 6805、690^ ----- 6793、680り、690い・ 3、691い・3、6923、 6933・は・に	南木曾町妻籠宿から馬籠峠に至る旧中山道沿いは木曾ヒノキ、サワラ、ヒバ等の天然林で構成されている。この一帯の国有林は国の重要伝統的建造物群保存地区及び県の郷土環境保全地区にも指定されており、自然探勝、憩いの場として適している。	ヒノキ人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導し大樹の森とする。 木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複 層林施業 天然生林 施業
田立 の滝	既設	91.72	南木曾 2116- 3～へ・ちり、 2126- と～り ----- 2116- い・と・ぬ、2117 い・3、21183、21253、 2121- い・3、2126- い～ほ ----- 2116- 1、2126- 1	木曾ヒノキを主とする天然林と、白く光る花崗岩の岩肌を落下する七つの滝からなる景勝地であり、民有地のキャンプ場と合わせ、保健休養の場として適している。	ヒノキ人工林については混入している広葉樹等の保残を図り、針広混交林に誘導し大樹の森とする。 木曾ヒノキ等の天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外

種 別		風 致 探 勝 林				
		面 積 (h a)	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
瀬戸川	既設	51.36	木曾 2025^、2026^、2028 ほ・ぬ・る、2029^・と、20 30に、2033ほ・ほ、2034 と、2040^、2055は ----- 2025と・り、2026ほ・に、 2027^、2028^~り、 2029^、2030い・る、 2031は、2032に、 2033に・と~り、 2034に・へ、2037^、 2038に、2039に・ほ、 2040に・ほ、2041に、 2044に・ほ、2045に、 2056^	王滝川支流の瀬戸川の 支流東俣沢から王滝村と 上松町の村境の分度峠に 至る沢沿いの歩道周辺に は木曾ヒノキの大径材が 残存する地域である。地 元王滝村のシンボリックな 存在であり、分度峠に至 る歩道とともに木曾ヒノ キ大径材を見学する利用 者が訪れる箇所である。	ヒノキの人工林につ いては混入している広 葉樹を保全しながら周 辺の天然林と調和した 大樹の森に誘導する。 木曾ヒノキ等の天然 林は、原則として現状 景観の維持に努める。	育成複 層林施業 ----- 天然生林 施業
面積計		699.24				

付表－ 1 木曾御岳自然休養林のゾーン区分別の林小班一覧表

ゾーン区分	面積(ha)	関係林小班	施業等	
野外スポーツゾーン	248.74	木曾 876は・に、877は、879は、880ろ、2444は、 2446い～ほ、2447い～た、2448い～か、2449 い・ろ・は・と～り、2453ろ～ハ	コメツガ等の天然林 については現状林分の 維持に努める。	天然生林 施業
		2446イ、2447イ～チ、2448イ～ハ、2449こ・ ホ、2453ハ・ホ～ト		林地以外
風景ゾーン	461.16	木曾 2435い、2439ろ、2441ろ・は、2449は	ヒノキ等の人工林に ついては混入している 広葉樹を保残しながら 周辺の天然林と調和し た針広混交林に誘導す る。 木曾ヒノキ等の天然 林は、原則として現状 景観の維持に努める。	育成複 層林施業
		2426い、2427い、2428い・ろ、2429い、2430 い・ろ、2435ろ、2436い、2437い、2438い、 2439い、2440い、2441い、2444ろ、2445い、 2449に		天然生林 施業
		2426イ、2428イ、2429イ、2430イ・ロ		林地以外
風致探勝ゾーン	122.02	木曾 2437ろ、2438ろ・は、2445ろ・は、2453い	自然維持タイプと重 複している区域につい てはその取り扱いによ る。 コメツガ等の天然林 については現状林分の 維持に努める。	天然生林 施業
		2438イ、2445イ、2453ロ・コ・リ・ヌ		林地以外

付表-2 赤沢自然休養林のゾーン区分別の林小班一覧表

ゾーン区分	面積(ha)	関係林小班	施業等
自然観察教育ゾーン	327.33	木曽 80い、81い・ろ、82い、83い、84い、86い、87い、 89い、90い、91い、92い・は、97い、98い、99い、 119い、120い・ろ、121い	<p>林木遺伝資源保存林、植物群落保護林と重複している区域についてはそれぞれの取扱いによる。</p> <p>天然生林施業</p>
森林スポーツゾーン	33.75	木曽 72ろ、73ろ、79い～は ----- 80ろ、82ろ、90は、91ろ ----- 70い、72い、73い・ロ、79い～こ	<p>ヒノキ等の人工林については混入している広葉樹を保全しながら周辺の天然林と調和した針広混交林に誘導する。</p> <p>渓流沿いの木曽ヒノキ等の天然林は、原則として現状景観の維持に努める。</p> <p>育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外</p>
風景ゾーン	273.82	木曽 81は、83ろ、84ろ・に、85ろ・は・ほ、86ろ・に・へ、 87ろ、88い、89ろ・に、92ろ、93ろ～に2、94い、 95ろ・ほ・へ、96ろ～ほ、 ----- 81に、84は・ほ、85い・に、86は・ほ・と、87は、88 ろ・は、89は・ほ、90ろ、92に、93い・ほ、95い・は に、96い、97ろ・は・に、98ろ・は	<p>植物群落保護林と重複している区域についてはその取扱いによる。</p> <p>ヒノキ等の人工林については混入している広葉樹を保全しながら周辺の天然林と調和した針広混交林に誘導する。</p> <p>木曽ヒノキ等の天然林は、原則として現状景観の維持に努める。</p> <p>育成複層林施業 ----- 天然生林施業</p>
風致探勝ゾーン	98.58	木曽 53に、54ほ、55へ・ち、61は・に、62ろ・に、65は、 66ろ、67は、68は、69ろ、70ろ、122ろ、131に・ ほ、132ろ、133ろ、134は、135へ・ち～ぬ、137 ろ・は、138ろ、144に・へ、145と・り・る、146ろ、 208ぬ、209に・ほ、210ほ ----- 53ほ、54に・へ、55と・り、143に、145ち・ぬ・わ、 208り・ぬ ----- 53い、62い・ロ、66い、68い、69い、208い、 209い～ハ	<p>ヒノキ等の人工林については混入している広葉樹を保全しながら周辺の天然林と調和した針広混交林に誘導する。</p> <p>木曽ヒノキ等の天然林は、原則として現状景観の維持に努める。</p> <p>育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外</p>

< 参考 > レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業法等

対象 団地	面積 (h a)	位置	施業等	
赤沢	474.99	木曽 101い・ろ、102い、103い・ろ・は・に、 104い、105い・ろ、106い・ろ、107い・ ろ・は、108い、109い・ろ、110い、 113い、114い、115い、116い、117い、 118い	赤沢自然休養林の周辺に広がる木曽ヒノキを 主とする天然林で構成されている。 人工林は侵入している広葉樹を保残し針広混 交林に誘導する。 天然林については必要に応じ人為をくわえ多 段林に誘導する。	育成複層 林施業
開田	493.06	木曽 801は～ほ、803ほ・へ、804い～は、 805い～へ、806ろ・は、807い～る・つ・ な～く、814い、816は～る、817い・ろ、 825い～に、828い～ほ・と～る、829 ほ、839ほ～と、843い～に・へ～る、 849ろ、854ち・り、857ぬ、858ち ----- 804い・ロ、816い・ロ、825い、 828い～ハ、843ハ、858い・ロ	開田野外スポーツ地域、三岳野外スポーツ地 域等レクリエーションの森の周辺の森林であ る。 人工林は侵入している広葉樹を保残し針広混 交林に誘導する。 天然林は現状林分を維持しつつ必要に応じ人 為をくわえ多段林に誘導する。	育成複層 林施業 ----- 林地以外

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

区 分	名 称	設定年	面積(ha)	位 置	選 考
施業指標林	油木沢ヒノキ天然更新	S 59年度	1.77	木曽 874ろ	天然林施業体系の確立
	ポドソル地帯におけるヒノキ天然更新	S 59年度	2.83	木曽 2201ろ	天然林施業体系の確立
	北沢峠天然林	S 59年度	2.16	木曽 158い	天然林施業体系の確立
	伊奈川天然林	S 59年度	2.14	南木曽 1417に	天然林施業体系の確立
試 験 地	三浦実験林	S 41 度	443.20	木曽 2626全～2637全、 2639全～2641全	ポドソル地帯におけるヒノキ天然林の更新施業体系の確立
	上松ヒノキ天然林の漸伐施業試験	S 47年度	7.97	木曽157い1～い3	漸伐施業におけるポドソル地帯の天然性稚幼樹の発芽試験
	赤沢ヒノキ施業試験	S 58年度	12.53	木曽100は1～は3	後継ヒノキ稚樹の育成
	助六実験林	H 1年度	94.13	木曽2156い・に、 2157い～へ、2179 い～は	ポドソル地帯におけるヒノキ天然林の更新施業体系の確立
	カンバ天然更新試験	H 4年度	2.62	木曽 2670に、 2672ほ	カンバ天然更新試験
	ヒノキ人工林天然更新	S 58年度	1.94	南木曽 568は	ヒノキ人工林天然更新
	カラマツ産地試験新高試験	S 33年度	2.12	木曽 804ろ	(森林総研) 異郷土樹種の導入
	成長予測の固定標準地	S 25年度	0.32	木曽 2019は	(森林総研) 林分成長推定予測
	成長予測の固定標準地	S 31年度	5.00	木曽 101ろ	(森林総研) 林分成長推定予測
	王滝ヒノキA種収穫試験	S 29年度	0.69	木曽 2302は	(森林総研) ヒノキ人工林の構造
	蘭ヒノキA種収穫試験	S 29年度	0.83	南木曽 611ろ	(森林総研) ヒノキ人工林の構造
	赤沢ヒノキ人工林収穫試験	S 38年度	1.20	木曽 78わ	(森林総研) ヒノキ人工林の構造と生長
	砂ヶ瀬外国樹種導入試験	S 34年度	1.26	木曽 603ぬ	(森林総研) 亜高山樹種の造林
	皆沢外国樹種導入試験	S 36年度	0.65	木曽 576た	(森林総研) 亜高山樹種の造林
	王滝天然更新試験	S 44年度	4.26	木曽 2438は、 2445は、2446ほ	(森林総研) ブナ及び亜高山帯の更新保育施業の体系化

区 分	名 称	設定年	面積(ha)	位 置	備 考
次代検定林	次代関長 2号一般	S 39年度	0.80	木曾 95^	ヒノキ
	関長 18号一般	S 49年度	1.23	木曾801は・に・ほ	カラマツ
	関長 16号一般	S 49年度	2.03	南木曾 624に	ヒノキ
	関長 20号一般	S 50年度	1.32	南木曾 1233ほ 1233^・1233と	ヒノキ
	関長 40号一般	H 1年度	0.26	南木曾 591は・と る	ヒノキ
	関長 47号一般	H 10年度	1.72	木曾 197ほ	ヒノキ
	関長 36号一般	H 17年度	0.64	南木曾 1232ほ	スギ
試植検定林	試植関長 ソ号	S 44年度	0.40	木曾 2392^	ヒノキ
遺 伝 子 検 定 林	長遺 11号	S 44年度	2.45	木曾 2392ほ	ヒノキ
	長遺 6号	S 44年度	3.25	木曾 2516ぬ	ヒノキ
精 英 樹 保 護 林	上松ヒノキ 5号	S 32年度	0.10	木曾 40ほ	
	上松ヒノキ 3号	S 32年度	0.10	木曾 40^	
	上松ヒノキ 1号	S 32年度	0.10	木曾 74ほ	
	上松ヒノキ 2号	S 32年度	0.10	木曾 136ほ	
	上松ヒノキ 4号	S 32年度	0.10	木曾 140は	
	上松ヒノキ 7号	S 32年度	0.10	木曾 302に	
	上松ヒノキ 6号	S 32年度	0.10	木曾 306ほ	
	上松ヒノキ 9号	S 32年度	0.10	木曾 312と	
	上松ヒノキ 10号	S 32年度	0.10	木曾 316ほ	
	福島アカマツ 104,105号	S 32年度	0.17	木曾 585に	
	福島アカマツ 103,108号	S 32年度	0.25	木曾 585ほ	
	福島アカマツ 101号	S 32年度	0.10	木曾 585^	
	福島アカマツ 106号	S 32年度	0.09	木曾 841と	
	福島アカマツ 107号	S 32年度	0.09	木曾 841ぬ	
	福島カラマツ 101・102号	S 32年度	0.20	木曾 803ほ	
	福島カラマツ 103号	S 32年度	0.10	木曾 803^	
	王滝サワラ 101号	S 33年度	0.10	木曾 2019に	
	王滝ヒノキ 103号	S 33年度	0.30	木曾 2032は	
	王滝ヒノキ 102号	S 33年度	0.17	木曾 2033に	
	王滝ヒノキ 101号	S 33年度	0.10	木曾 2034に	
	王滝サワラ 102号	S 33年度	0.10	木曾 2039に	
	野尻ヒノキ 1号	S 32年度	0.10	南木曾 1037り	
	野尻ヒノキ 3号	S 32年度	0.10	南木曾 1086ほ	
	野尻ヒノキ 5号	S 32年度	0.10	南木曾 1085ほ	
	野尻ヒノキ 6号	S 32年度	0.10	南木曾 1085は	
	野尻ヒノキ 7号	S 32年度	0.10	南木曾 1085に	
	妻籠ヒノキ 5号	S 34年度	0.10	南木曾 612ほ	
妻籠ヒノキ 2号	S 34年度	0.07	南木曾 634は		

区分	名称	設定年	面積(ha)	位置	備考
特別母樹林	特45-2	S 45年度	9.84	木曽 866㌠	ヒノキ
		S 45年度	16.50	木曽 867㌠	ヒノキ
		S 45年度	10.35	木曽 872㌠	ヒノキ
		S 45年度	12.11	木曽 873㌠	ヒノキ
展示林	小川入ヒノキ	S 52年度	1.00	木曽 2930㌠・㌡	ヒノキ
	ヒノキ精英樹系統苗	S 44年度	1.13	南木曽 1019㌠	精英樹毎の実生大苗を植付し成長比較
	ヒノキ	S 56年度	0.20	南木曽 1083㌠	人工林ヒノキ優良林分
	ヒノキ	H 4年度	0.84	南木曽 1253㌠	人工林ヒノキ高齢級優良林分

(2) フィールドの提供等

ア、木の文化を支える森

名称	面積(ha)	位置	選定の目的等
檜皮の森	71.36	南木曽 702㌠・703㌠・ 706㌠・707㌠	歴史的建造物の屋根葺き材料としての檜皮の供給を図るため設定 協定相手方「(社)全国社寺等屋根工事技術保存会」 設定年 平成14年
南木曽伝統工芸の森	3.16	南木曽 609㌠	南木曽町の伝統工芸品のロクロ細工に充当する広葉樹の育成を図るため設定 協定相手方「南木曽伝統工芸の森育成協議会」 設定年 平成18年5月26日締結

イ、ふれあいの森

名称	面積(ha)	位置	選定の目的等
太樹の森・赤沢	6.92	木曽 86㌠・87㌠・88㌠・ 89㌠	協定相手方「NPO法人地球緑化センター」 設定年 平成11年

ハ、その他

名称	面積(ha)	位置	選定の目的等
城山史跡の森	77.90	木曽 722㌠～726㌠	自然再生、森林環境教育等に取り組むNPO・ボランティア団体等の支援及びその活動拠点として整備するために設定 協定相手方「城山史跡の森倶楽部」 設定年平成16年